

**助成年度：2018 年度**

[所属] 東京情報大学 総合情報学部

[役職] 教授

[氏名] 原 慶太郎

[課題]

## **生態系と歴史記憶を活かした防災・減災による景観再生—持続可能性とレジリエンスを高める震災復興—**

[内容]

仙台湾沿岸の東日本大震災の復旧・復興事業を例にとり、Eco-DRR と歴史記憶という観点から、持続可能性とレジリエンスを高めた景観再生という枠組を提示した。近年、世界各地で地震や Extreme weather と呼ばれるような台風や大雨による自然災害が多発している。一方で、日本は人口減少のフェイズに突入し、持続可能でレジリエンスを高めた社会づくりが求められている。被災地の多くが沿岸域の農業や漁業に支えられた地域であることを踏まえると、これらの産業を支える健全な自然環境が確保され、生物多様性が豊かであることから受け取ることができる恵み（生態系サービス）を享受し続ける社会的枠組を提示しなければならない。また、コンクリートなどの人工建造物による対応だけでなく、生態系を活かした防災・減災（Eco-DRR）の意義や、加えて、地域住民の伝統知・経験知を活かしたソフトによる防災・減災の重要性が再認識されている。多機能性のグリーンインフラの整備や生物多様性の保全のためにハビタットの連結性を保持しつつ、自然災害に備えた土地利用などを進めて、生態系を活用し、地域の歴史記憶による経験知を活かした防災・減災による景観再生を議論した。